

特集

せたがやを歩こう

野毛大塚古墳で古代と触れよう

世田谷の古墳を知っていますか。玉川野毛町公園の東京都指定史跡・野毛大塚古墳は帆立（ほたて）貝形で、この形としては日本最大級。さらに出土品は国の重要文化財指定。毎年「野毛古墳まつり」も開催されます。そんな素敵な場所について紹介します。取材・文／北原今日子

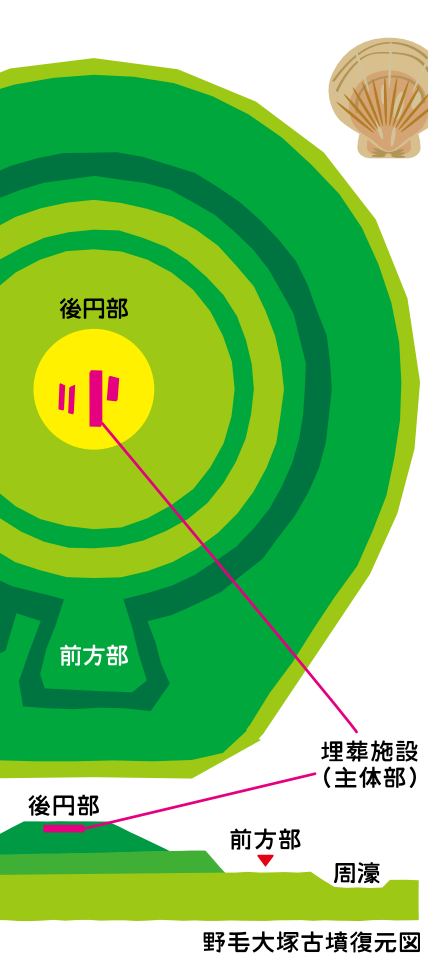
この地は王家の丘だった 1600年の時をひとまたぎ



世田谷には古墳がありました。それも結構たくさん。特に多摩川流域の、台地と低地が入り組んだ、土壌豊かな国分寺崖線沿いの高台で目立つ場所に、この地を治めた王の墓がいくつも作られ、王家の谷ならぬ「王家の丘」になった。

古墳群の多くは現存しませんが、今から約1600年前（5世紀頃）の古墳時代中期に築造

していたとは、今回、世田谷区教育委員会事務局・学芸員の寺田良喜さんに話を聞くまで知りませんでした。



帆立貝形古墳「野毛大塚古墳」。今ではまわりは住宅地です ©世田谷区

されたと考えられる野毛大塚古墳は、平成5年に復元され現在の形に。また、埴輪や副葬品などの出土品293点が、平成28年に国の重要文化財に指定されています。特に武器や甲冑など多種多量の鉄製品は、学術的価値が高いのだとか。縁のギザギザが珍しい土器のような朝顔形円筒埴輪、花器のような朝顔形円筒埴輪などもあり、これらの出土品は世田谷区立郷土資料館で展示・公開されています。



右・柵形埴輪（さくがたはにわ） 左・朝顔形円筒埴輪（あさがおがたえんとうはにわ）／写真提供・世田谷区教育委員会

右・鉄製甲冑（復元品）下・集積された鉄製武器（第3主体部）／写真提供・世田谷区教育委員会

